

一次研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌、腺癌、メラノーマ、ほか		
	タイプ			
タイトル情報	論文の英語タイトル	Intratumoral cisplatin/epinephrine-injectable gel as a palliative treatment for accessible solid tumors: a multicenter pilot study.		
	論文の日本語タイトル			
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1. 有り 2. 無し （ 1 ）		
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ8-5		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV ）		
	Pubmed ID	9560102		
	医中誌 ID			
	雑誌名			
	雑誌 ID	Otolaryngol Head Neck Surg.		
	巻	118		
	号	4		
	ページ	496-503		
	ISSN ナンバー	0194-5998 (Print)		
	雑誌分野	1. 医学 2. 歯学 3. 看護 4. その他 （ 1 ）		
	原本言語	1. 日本語 2. 英語 3. ドイツ語 4. その他 （ 2 ）		
	発行年月	1988		
	著者情報		氏名	所属機関
		筆頭著者	Burris HA, 3rd,	Brooke Army Medical Center, Fort Sam Houston, Texas, USA.
その他著者 1		Vogel CL		
その他著者 2		Castro D		
その他著者 3		Mishra L		
その他著者 4		Schwarz M,		
その他著者 5		Spencer S, et al.		
その他著者 6				
その他著者 7				
その他著者 8				
その他著者 9				
その他著者 10				

一次研究の 8 項目	目的	緩和的治療としての CDDP+epinephrine の有効性を調べる	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	米国 Brooke Army Medical Center 他 15 施設	
	対象者	手術、放射線、手術、放射線、全身化学療法拒否あるいは適応のない皮膚の局所病変を持つ患者 45 例。なお、41 例（90%）の症例は既治療例（手術、放射線、全身化学療法、温熱療法）。皮膚扁平上皮癌 21 例、洗顔 17 例、メラノーマ 4 例、他 3 例。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 2 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （14 ）	
	介入（要因曝露）	CDDP+epinephrine	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	奏効率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	奏効期間	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	全ての症例（皮膚扁平上皮癌以外を含む）の奏効率は CR40%、PR10%。皮膚扁平上皮癌のみでは、21 例 32 病変中、CR12 例、PR3 例、RR:38% 有害反応は局所反応 82%、嘔気 22%、嘔吐 16%、熱 11%、痛み 11%、だった。	
	結論	本治療法は緩和療法として有効である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原 久	

	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） 本邦ではなじみの少ない治療法である。手術、放射線療法、全身化学療法などの施行後に再発し増悪してくる病巣に対する治療法として、今後本邦でも検討が必要かもしれない。治療を行った腫瘍のサイズや SCC における奏効期間（他の腫瘍も含めた CR 病巣の奏効期間は中央値 160 日、28-469 日と示されている）。症例集積研究とも言えるが、奏効期間も長期観ており、コホート研究に準じるものと評価した。
--	------------	---